

2021年度 学校評価報告書(学校自己評価)

学校経営計画				学校自己評価(4段階評価) A:達成度が高い B:概ね達成している C:課題を残している D:速やかな改善が必要である					
分掌・委員会	項目	目標・課題	取り組み・実施計画	優先度 (高・中・低)	実施評価	到達度合いの評価方法 (数値・回数、アンケート結果等)	到達度(今年度の成果)	次年度に向けての課題及び対応策	
教務部	教科指導	中学MYP	授業と評価の質を向上させる。	教科会議でUnit Plannerを共有し、継続指導ができるように、教員間で共有する時間を持つ。	高	A	教員研修を年に5回実施し、情報共有と授業内容の共有をする。	各教科内で発表に向けて縦の連携が深まった。また、学際単元は横の連携と生徒の成果物の質が非常に高くなった。	各教科の連携をさらに深められるよう委員会を有効に使う。ユニットの内容を全員が共有する機会を持つ。再認定に向けての業務改善を進める。
		高校授業改革	各教科で探究学習をする。探究のテーマ、探究の問いを立て、学びを深める。評価改革を行う。	多種多様な評価課題を授業で提示。教員は担当者会議を実施し、情報共有を定期的にはかる。	高	B	担当者会議を実施し、情報共有と授業内容の共有をする。	次年度以降の評価方法については、年度内に改訂した。が、探究授業についてはまだ改善が必要な部分がある。	シラバスをもとに探究授業を実践し、教科内で振り返りの時間をとる。新評価を確実に実践していく。
	ICT活用	ICT環境の整備と継続的に活用できるように調整する。	活用方法などを継続的に活用できるように、共有し、スキルアップをしていく。	高	B	授業アンケートの結果	サーベイランスやICT時間割等使用する場面は増えているが、授業での活用にまだ学年や教科に偏りがある。	授業での活用をより広げる必要があるため、ICTの研修を実施し、全体での理解と活用を上げていく。	
	教職員の研修	中学・高校とも授業内容の全体共有と授業内容の改善・振り返りの継続。	教員研修を定期的に行い、授業内容の共有や相互理解、改善する機会を持ち、授業力のアップをはかる。	高	B	教員研修会	研修会では教員間でも共有し、理解を得られたとは考えるが、それを実際の授業での活用という面では様々な工夫が必要と考える。	教員間の授業見学や教科での検討会など、授業実践においての手法など、授業力アップを継続的に目指す。	
	生徒・保護者	生徒・保護者が理解を深めるための取り組みを実施する。	学年集会や保護者会を実施する。通信などの発行により情報発信を行う。	高	B	保護者会・三者面談・授業アンケートの結果	中学では、IB通信や学年通信の定期的発行ができた。高校での定期的な情報発信も必要である。	中学高校とも保護者会や通信等で保護者への発信をすることで、理解を深める機会を作る必要がある。	
	教務全般	生徒・保護者・塾から信頼される学校づくり。丁寧で誠実な対応。	教員間での報告・連絡・相談を円滑に行い、連携をとる。教員のスキルアップを目指す。	高	B	職員会議での情報共有	職員会議での情報共有	教員間の情報共有は各種会議等で行うようにしていた。が、不十分なところもあった。	各種会議や職員会議での内容を共有する。業務の分担をし、協働して全体理解・連携をはかる。
生徒指導部	生徒指導	組織的な生徒指導	信頼関係を教員・生徒・保護者に対してきづける部にする。	毎日の生徒に対する声掛けを忘れずに実施することを呼びかける。学年で課題を解決する。	高	B	業務の明確化。班の攻勢に変更。週1回の部会にて情報共有と学年へのフィードバック運営委員会での情報共有	各教員、スケジュール管理や多忙なため、で達成できていないことが多かった。	ない。各先生の職業観や自覚次第。
		生徒指導部の組織変更	企画広報からの業務移行。	すみれ会(同窓会)ポスター掲示、学校生活アンケートを速やかに引き継ぐ。	中	B	実施後、フィードバック報告書を提出。	前任者からの引継ぎが遅れ、達成が遅れた。	事務なのか卒業生を担当した教員担当なのか、明確にする。
		教育相談・生徒理解及び指導	不登校生徒・不登校傾向生徒・カウンセリング実施生徒等の確認	学校や教室への登校を促す材料にし、全教員で、指導漏れを防ぐ。	高	C	管理職への回覧方式の生徒教育相談状況報告書(1日・15日に報告)の発行を行う。	煩雑過ぎて、途中で廃止。達成できず。	業務を見直し、廃止を進め、現状の業務をインベションし、個人の時間の確保を進める。業務のゆとりをつくる。
		適切な時期や時代背景に合わせた女子生徒指導	現状の女子生徒への組織的指導や体系的な指導の問題点を把握する。	行事予定の明確化・作成を行う。	中	C	試行期間であるので、希望者を募って実施する。	現行より仕事が増えることになり、早い段階で取りやめ、達成できず。	業務を見直し、廃止を進め、現状の業務をインベションし、個人の時間の確保を進める。業務のゆとりをつくる。
		朝のあいさつ運動の変更	全教職員体制で取り組む体制を整える。	従来取り組んでいた朝のあいさつ運動を生徒指導部だけでなく、各部、学年で対応する。	中	C	毎日、どれだけ参加しているか確かめる。	時間外勤務であったり、授業準備をしたいという要望があり、1学期で中止。達成できず。	業務を見直し、廃止を進め、現状の業務をインベションし、個人の時間の確保を進める。業務のゆとりをつくる。
		問題行動に対する指導	問題等は、学年ですべて対応する。	特別指導は各学年で対応する。(新)生徒指導案件検討委員会を立ち上げ、そこで検討する。	高	A	学年会・部会などで情報共有し、事象によっては臨時会議で対応を検討	担任や主任は、責任感を持ってやって達成した。一部の副担任は対応不十分であった。	業務を見直し、廃止を進め、現状の業務をインベションし、個人の時間の確保を進める。業務のゆとりをつくる。
		下校バスクラブ指導	部活動・学年で取り組む体制をつくる。	下校バスクラブ指導担当の変更→各部・学年単位で取り組む。	中	C	各クラブ活動・学年が参加したかを現場で確認する。	多忙過ぎて、7/7まで管理する教員少ない。達成できず。	ない。各先生の職業観や自覚次第。
		式の講話担当の変更	式の講話は、意味のある時期に実施し適切な部長が実施する。	式の講話は、適切な時期に部長が交代で実施	中	B	どの部長が話したか、確認する。	減ったが、まだ、流れができていない。達成不十分。	始業式は、主任や他の部長がスピーチすべき。
	人権教育	人権教育指導計画の立案	現状の人権教育やHR等の把握・確認。	各学期に報告書を提出させる。	中	C	毎学期の報告書を確認する。	人権教育HRの指導文化が確立していない。達成できず。	業務を見直し、廃止を進め、現状の業務をインベションし、個人の時間の確保を進める。業務のゆとりをつくる。
		適切な時期や時代背景に合わせた女子生徒指導	現状の女子生徒への組織的指導や体系的な指導の問題点を把握する。	行事予定の明確化・作成を行う。	中	C	試行期間であるので、希望者を募って実施する。	現行より仕事が増えることになり、早い段階で取りやめ、達成できず。	業務を見直し、廃止を進め、現状の業務をインベションし、個人の時間の確保を進める。業務のゆとりをつくる。
特別支援	教育相談・生徒理解及び指導	不登校生徒・不登校傾向生徒・カウンセリング実施生徒等の確認	学校や教室への登校を促す材料にし、全教員で、指導漏れを防ぐ。	高	B	管理職への回覧方式の生徒教育相談状況報告書(1日・15日に報告)の発行を行う。	煩雑過ぎて、途中で廃止した。達成できず。しかし、個別生徒の対応は対応できている。	業務を見直し、廃止を進め、現状の業務をインベションし、個人の時間の確保を進める。業務のゆとりをつくる。	
保健管理 安全管理	心のケアや健康相談体制の整備	二者面談にこころの相談を実施	こころのケアアンケートも2者面談等に実施し、生徒とのツールとする。	中	A	2者面談や面談の際に原稿を担当に渡し、資料にする。	担任の先生にご尽力していただいた。達成した。	時間をさらに確保し、生徒に向き合う時間、本来の業務の時間に使うべき。	
	健康観察・健康管理能力の育成	自らの健康は自ら守り維持する意識と実践力の育成・新型コロナウイルス感染症予防実践力の育成	毎朝の健康チェック(検温・問診項目に答える)。感染症拡大防止教育のための情報提供。校内予防対策を図る。	高	A	生徒、保護者の理解が深まっているか、学校生活アンケートをとり、フィードバックしていく。	担任の先生が非常によく取り組んでくれた。達成した。	時間をさらに確保し、生徒に向き合う時間、本来の業務の時間に使うべき。	
進路指導部	「進路」に対するイメージの改善	自己評価を上げ、自らの進路に対し前向きにチャレンジする生徒を増やす。	各種模試や検定試験などで好成績を収めることで自分の進路に対するマイナスのイメージを払拭し、明るい未来に対し自らが今できることを認識し、様々なことにチャレンジする雰囲気醸成する	中	C	学校生活アンケートの結果	目標が達成されたとは言えない。	生徒・教員共に時間の確保が急務で、何をして何をしないかの選別が必要である。	
	中学生の基礎学力の充実	積み重ねの教科である英語・数学に関し、高校入学後困らない程度の学力を担保する。第3回学力推移調査における全国偏差値を立命館コースで50、特設コースで45を目指す。	教科任せにするのではなく、学年全体でのサポート体制を構築し、速切れることのない学習習慣を身に付けさせる。	高	C	2021年度第3回学力推移調査	目標が達成されたとは言えない。	生徒・教員共に時間の確保が急務で、何をして何をしないかの選別が必要である。	
	理系誘導	立命館コースにおける理系進学者の数を40%まで増やす。	2019年度入学生についてはほぼ希望進路が決まっている。長期的な視野に立ち、これから高校生活を送る新入生に対し、様々な施策を検討していく	高	C	2021年度入学の立命館コース生の理系学部進学者数の割合	昨年の理系進学率36.6%から32.2%へ低下した。特に理工学部進学者が1名となった。	理工学部との連携を強化する。特に保護者に対する啓発活動を行いたい。	
	国公立大学進学者を増やす	国公立大学進学者数を8名出すことを目指す。	総合選抜型入試の利用や、後期日程まで粘るような指導を行う。	高	A	2022年度入試結果	9名が国公立大学に進学した。	目標を上回る結果となったが、何がよかったのか検証が必要である。	
	海外大学への進学希望者を増やす	海外の大学に対する興味を持つ生徒を増やす。	生徒・保護者を対象に繰り返し説明会を実施する。	中	B	説明会の参加者の延べ人数	新型コロナウイルスの影響で、海外へ興味を持ちながらも、実際の行動に移すことは難しい状況が続いている。	社会情勢のこともあり、辛抱強く取り組む以外ない。	
	進路に関する情報発信の強化	学校生活アンケートの結果では、保護者からは進路についての情報が十分に得られていないという声が寄せられている。生徒・保護者への進路情報の提供を進めていく。	進路通信を月1回発行する。	中	C	学校生活アンケートの結果	生徒への情報開示が十分に行われたとは言えない。	情報発信に関わる時間の確保が急務である。	

学校経営計画					学校自己評価(4段階評価) A:達成度が高い B:概ね達成している C:課題を残している D:速やかな改善が必要である				
分掌・委員会	項目		目標・課題	取り組み・実施計画	優先度 (高・中・低)	実施評価	到達度合いの評価方法 (数値・回数、アンケート結果等)	到達度(今年度の成果)	次年度に向けての課題及び対応策
入試広報部	生徒募集	受験生・入学生の確保	・中学、高校共に各コースで定員充足率100%を目指す。	・学外関連機関及び学習塾などからヒヤリングし情報収集・分析を行う。 ・各コースの特徴を明確に伝え、受験者数を増加させる。 ・塾訪問機会を増加させ、生徒(児童)1人を出願、受験、入学となるように追いかけていく。 ・塾との連携を強め、特定の塾対象のプレテスト、説明会、学校見学会等を実施する。 ・個別指導塾への訪問頻度を上げる。	高	A	出願者数、受験者数、入学者数の推移を確認	十分達成できた。 中学入試結果 募集定員60名→入学者数93名 (定員充足率 155%) 高校入試結果 募集定員160名→入学者198名 (定員委員充足率 124%)	今が本校の募集の上限である。 継続をすることは難しいが、できるだけすよう入試の方策を考えていく。
	入試業務	入試業務の統括	入試業務の統括を行う。	・入試に関する物品や会場等の準備を行う。 ・入試当日の人員配置や運営を行う。 ・受験生の答案や成績処理に関わる運営を行う。	高	A	入試当日のトラブルの有無を確認	達成できた。 大きなトラブルもなく無事終えることができた。追試験も問題なし。	運営面で、思っているより細かい業務の指示をしないといけないということがわかった。細やかな指示をしていきたい。
	学校広報	効果的な広報活動	・本校の教育活動の認知度を高める。 ・MYPの授業や探究的な授業の認知度を高める。 ・学校の魅力を外部へ発信する。 ・効果的に発信する。	・校外での広報活動の頻度強化し、奈良県のみならず、大阪及び京都へも広報活動を広げる。 ・MYPの授業や探究的な授業の見学できる機会をつくり、保護者、生徒(児童)及び塾関係者の認知度を高める。 ・生徒実行委員会と連携し、オープンスクール等の行事を通し学校の魅力を外部へ発信する。 ・ホームページ、SNS等のインターネットを利用したツールを効果的に用いて発信する。	高	A	オープンスクール等のイベント参加者の推移を確認	十分達成できた。 コロナ禍であるので、過年度比較は難しいという点はあるが、各回ほぼ満席の状態推移している。	高校入試の参加者が若干少ないような気がするので、開催時期等を確認して行きたい。
企画広報部	学校情報の発信	積極的な情報発信	学校新聞などにより、積極的に情報を発信していく。積極的な生徒の参画を行う。	学校新聞などにより、積極的に情報を発信していく。積極的な生徒の参画を行う。	高	A	学期ごとの学校新聞発行	滞りなくスムーズに発行することができた。	引き続き、スムーズな新聞発行に加え、記事内容の見直しを必要とする。
	行事授業等の公開	感染症対策をしっかり行い、学校行事や授業を保護者や場合によっては地域への公開を行う	保護者や地域の人に可能な限り広報して、本校の活動を知ってもらう。ICTの活用。	保護者や地域の人に可能な限り広報して、本校の活動を知ってもらう。ICTの活用。	高	B	学校行事や授業参観などの参加人数の推移を確認	コロナの影響で、保護者に学校行事等に参加してもらえないことが多かった。	学校行事等の実施方法を例年とは変えていき、少しでも多くの方に学校行事に関わってもらうようにする。
	育西会との連携	保護者との連携を密にして学校への理解を深めてもらう	役員会・委員会・保護者会を通じて、相互理解をはかり、日々の教育活動に生かす。	役員会・委員会・保護者会を通じて、相互理解をはかり、日々の教育活動に生かす。	高	A	行事・保護者説明会等の参加人数の推移	行事の前後で、育西会としっかり連携をとることができた。また、ICTの活用により説明会等の出席率は上がった。	引き続き、事務と連携し育西会と密に連絡を取り合っていく。説明会についても継続してICTを活用していく。
組織運営	学校経営計画	年度当初に教育理念・学校経営方針を提示し、教職員相互に共通理解をはかる。	学園経営状況を把握し、本校の特色ある教育活動を推進めつつ、教育内容を積極的に外部発信することで募集へ繋げる。	学園経営状況を把握し、本校の特色ある教育活動を推進めつつ、教育内容を積極的に外部発信することで募集へ繋げる。	高	B	募集活動を計画的に行う。校内の特色ある教育実践の発信。	渉外担当部と校長が計画的に渉外にあたった。定員充足率100%を超えた。	高校の特設コースⅡ類の特色ある教育活動の発信に課題が残る。
	分掌間の連携	本校の教育を進めるために、分掌長の連携を密にし実践していく。	分掌長を核として、運営委員会での連携を密にしていく。	分掌長を核として、運営委員会での連携を密にしていく。	高	B	毎週1回実施	毎週の実施ができた。	運営委員会での方針が各分掌長から各所属教職員へ伝達しきれていない場合がある。
	教職員間の連携強化	分掌・学年・教科等の会議等により教職員間の連携を深める。	学年主任・分掌長のリーダーシップにより、教職員間の連携を強化しつつ、教育改善に努める。	学年主任・分掌長のリーダーシップにより、教職員間の連携を強化しつつ、教育改善に努める。	高	C	週1回のコース会議、教科会議の実施と、必要であれば職員会議等での共有。	各種会議と臨時的職員会議での共有は実施された。	職員室の分散により連携が取り切れていない部分がある。
	教職員研修会の実施	教員の資質向上をはかると共に、教育改革推進を実践するため、担当分掌のリーダーシップのもと、計画的に実践して行く。	教育改革の方向性に基づいた、定期的な校内研修に加え、校外研修への積極的な参加する。	教育改革の方向性に基づいた、定期的な校内研修に加え、校外研修への積極的な参加する。	高	B	校内外の研修実施。	月に2回程度の教員研修を実施した。	中学の授業実践に終始しており、他の特色教育について理解のない教職員がいる。
施設設備管理	施設の管理	定期点検を実施すると共に、教室等の施設、火元管理、整理整頓、備品管理、美化に努める。	各室の管理責任者との確認。学校全体で省エネに対する意識を高める。	各室の管理責任者との確認。学校全体で省エネに対する意識を高める。	高	B	定期的な点検の実施。	各教室のエアコンの温度管理を徹底した。	コロナ禍で換気が必要なため、費用の抑制が課題。
	学校に関する情報提供	学校評価(学校自己評価等)の結果を公表する。	学校評価に関して、保護者には文章とHPにて公表するとともに、改善に努める。	学校評価に関して、保護者には文章とHPにて公表するとともに、改善に努める。	高	B	HP掲載と保護者へのフィードバック	HPへの公表が実施された。	保護者への発信が行われていない。
	文書管理徹底	学校関係書類の情報開示にむけて、文書管理を徹底する。	管理の徹底。1年に1度の点検の実施。	管理の徹底。1年に1度の点検の実施。	高	B	日々の注意喚起	年度の初めに管理簿を作成した。	年度途中での管理状況の確認が必要。